## 田中様への感謝と別れの言葉(最後の電子メール)



田中さん、『ダッカ市交通問題の改善』の技術支援事業だったのに本当に悔しく、残念無念でなりません。直前までダッカの田中さんとメールを交わしては順調に進んでいる様子でしたので、『7.1ダッカ集団テロ』というニュース速報に大きな衝撃を受けました。受信後、直ぐに横浜の奥様に電話を入れ、現地や欧州の英字報道を注視しては奥様と鉄道総研や関係箇所に連絡をし続けました。厳しい状況が続き、その後の残忍で最悪の結果には、暫く茫然となり、声も出ず、一途の望みも砕け散りました。

田中さんとは国鉄時代の鉄道技術研究所の上司として出会いが始まりましたね。その後、引っ越しや博士論文の実験助手の関係に続き、新婚時代には官舎の我が家に寄っては励ましや助言も頂く関係になりました。満州生れの田中さんは混乱の中を内地に引き上げ、苦学して北大に進まれました。国鉄時代には内乱で危険なアフリカのザイール(現在のコンゴ)のインフラ整備の技術支援に進んで行かれ、帰国後は鉄道技術研究所での研究の傍ら、空気ブレーキの列車管圧力変動を博士論文にまとめられ私の名も論文に連ねて頂きましたね。研究所とその後の日立製作所を退職後は、技術士コンサルタントとしてアジアの困難な国へ再び夢を抱き高齢になっても支援を続けられました。

苦難の場でも逆境を感じさせず、温厚で愚痴も言わない飄々とした明るい人柄でした。現役引退後、私たち夫婦が挙式をした聖イグナチオ教会で一人洗礼を受けられたこと、教会でヘルパー活動もされていること、米国に旅立つ娘さんが心配なことなど、自身の思いを吐露される表情も昨日のように目に浮かびます。研究所の退職から30年ほどたちますが、上下の隔たりの無い、穏やかな関係が続く数少ない大先輩であり、次第に私も退職後の海外コンサルに思いが膨らみ、機械部門の鉄道車両の分野の技術士として、数少ない大先輩で同志となっています。

あの大事件から早や4日経ちました。帰らぬ田中さんのPCに最後の電子メールを送ります。

「田中さん、これまで色々とありがとうございました。この事件に込み上げる無念さと自問自答が今も続き、瞼を閉じるとなぜか温厚な田中さんの笑顔ばかりが浮かんできます。

今度は私のわがままを聞いて下さいませんか。なぜあの日あの時、皆であの場に行かれたんですか。自問自答が続く私に応えてくださいませんか。また、ご家族の皆が寂しい思いをしています。今後はご家族の下でゆっくりと休まれ、少しはぐうたら爺さんとなった話も聞かせて下さい。

それが耐えられないなら風となり、後に続く者たちを見守って下さい。そして、 自慢げに威張った姿も少しは見せてください。お願いいたします。」

## 追伸

7月8日金曜日の午後、聖イグナチオ教会の主聖堂にて葬儀ミサと告別式が執り行われました。前々日の深夜まで約20の関係箇所に連絡をしましたが、平日にもかかわらず、数百名もの知人や友人の皆様に参列を頂きました。主聖堂に替えて正解でした。今回、娘さんのアフリカでの困難な支援活動のことも初めて知りました。田中さんに似てご立派ですね。驚きました。

最後に、想い出深い教会での、田中さんの人柄が偲ばれる素晴らしい葬儀ミサは、田中さんの「地の塩、世の光」の人生を偲ばせるものでした。妻と共にあらためて敬服しています。安らかにお休みください。

(2016/7/14, 川口清、陽子)



2 1905 走行抵抗の式をお教え下さい
L金 17\_ Re: 走行抵抗の式をお教え下さい
L金 Re: 走行抵抗の式をお教え下さい
L金 Re: 走行抵抗の式をお教え下さい
IR 未行抵抗の式をお教え下さい
IR 田中様、受難に別かの事業の目
IR 中様 最後後のメール 20160705(修正版 川口)